

フィールド風

宮田守男

(現場)からの

7月上旬、地域で活躍する経営者の皆さんと研修旅行に参加する。旅行企画段階から参画したのだが、行き先の選定が旅行企画委員の頭痛の種だ。1泊

2日での企画、大型バスの事故多発を受けて安全運行の順守によるバス関係費の高騰、運転手1人での運行距離の制約などで行動範囲が限られる条件。当然、企画した訪問地、「これまで」に訪問した「との声が聞こえてくる。多くの皆さんに参加してほしいとの願いから、新名所探しの楽しさが展開される。

「泊まる」のキーワードで選ばれたのが、静岡県沼津市の戸田温泉だ。宿の館内に掲示されたポスターを見て「へた」ではなく「へた」と理解したほど馴染のない温泉地。昭和61年

に湧き出した新しい温泉。源泉温度は52度。温湯を好む人には、物足りない温度だが、温泉をゆっくり楽しむ人には、他の温泉では味わうことができない特別入浴体験だ。

初めて訪れる楽しさを体験するために、積極的に旅に出掛けてみませんか。岬、あいにくの天候で、牧水が「伊豆の国・戸田の港ゆ・船出すと・はしなく見たれ・富士の高嶺を」と詠んだ富士の雄姿が見られなかったのが心残りだった。宿名の「いさば」は、魚の意で用いられ

刺身など膳がにぎやかで、自慢の魚料理が宴を大いに盛り上げる。「見る・買ひ物」のキーワードで選ばれたのが、沼津港魚河岸での食事と海産物の買い物。真剣に海鮮丼と向き合う参加者から満足

しさが食卓をにぎわす。また今回、楽しみにしたのが、沼津港内の「沼津港深海水族館」。深海をテーマにした世界初の深海水族館だ。2011年に地元の水産会社が、オープン時

設。近年、深海魚の話題が多く、情報番組で水族館も話題になり、注目されている場所だ。目玉は、数億円で購入した、冷凍2体と剥製3体のシーラカンス。シーラカンスはワシントン条約で「絶滅寸前種」に指定され商業利用が一切禁止された。白馬村森上



旅行企画での新名所探しの旅行雑誌の活用。旅行気分をさせるから不思議だ